

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑顔・安心・安全・家庭的」をスローガンに掲げ、共通の理念を持っている。	[安心・安全・笑顔・家庭的]をスローガンに実践されていました。理念は施設内に掲示され、職員が常に意識できるよう図られていました。またホームページにも掲載され地域への理解にも努めていました。職員アンケートも実施されスローガンに対する自分なりの取り組みを説いていました。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	買い物、散歩など、日々の交流はもとより、運営推進会議などを通じ、地域行事へのお誘いを頂いたり、ホーム行事や消防訓練などへの協力依頼なども行っている。	買い物等は必要に応じ近くのスーパーマーケットに出かけていました。地域交流は町民祭、お神楽、車いすダンスのボランティアが行われていました。災害時の協力依頼は隣接している2自治体をお願いしていました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域へ出かける機会(お花見、外食、ドライブなど)を通じ、交流を図ることで事業所の活動を知って頂けるよう努めている。また、当法人は「松本山雅FC」の公式サポーター及び支部長をしており、スポーツと医療・福祉を結びつける活動にも力を入れている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	区長、民生委員、行政、御家族をお招きし、「入居状況」「インシデント・アクシデント」「行事などの活動」「防災訓練について」などを報告し、意見・要望などを伺っている。また、可能な範囲で意見を取り入れている。	災害非常訓練は、年4回実施し区長さんの参加もお願いしていました。地域の方に車いす誘導の講習会を3日間行い理解がえられるよう努めていました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	入退居状況やその他状況報告の為、運営推進会議以外にも、不定期ながら月に数回程度窓口に向い、或いは電話をするなど、担当者との情報交換を行っている。	運営推進委員会は2か月ごとに開催され、家族・地域・自治会・また行政担当者の出席をお願いし、情報の共有を図っていました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「防犯対策」として”施錠(オートロック)”はあるが、これについては出来るだけ外出の機会を増やしたり、気候のよい時期は出来るだけ開放するよう努めている。対応困難なケースについても、職員・御家族と十分に話し合い、身体拘束に当たらないケアを心掛けている。	家族と散歩中に骨折された方、他者の居室から外出されてしまった方等の安全と安心を検討されながら、身体拘束のない対応を検討されていました。ベッド使用から床生活等検討されていました。支援の取り組みは月1回の職員会で身体拘束検討が行われマニュアル資料の配布もされていました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入居者の身体状況やおかれている状況についての把握に努め、対処方法などスタッフ全員で考え、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じて、御家族や関係者と話し合う場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	出来る限り意見・要望を伺い、理解と納得、同意の上で入居して頂けるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族などの面会の際には、極力職員から声を掛けるように努めている。また、重要事項説明書記載の”外部の相談窓口”の紹介や説明を行っている。更に、雲影推進会議などにおいても、意見・要望を伺うようにしている。	家族の面会時等に、意見や要望を聞いている。利用契約書には、利用の詳細がかかれ周知に努めていました。重要事項説明書には、施設の苦情対応体制が記載され家族に周知されていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各会議や法人代表との個別面談において、意見・要望を聞くよう努めている。	各会議や個人面談で意見要望は聞かれました。スタッフアンケートにも「理想とするグループホーム像」に問いがあり職員の意見や提案を反映されていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人代表は、管理者とのミーティング(月1回以上)や個別面談(年1回)、不定期訪問(月1回程度)を行い、個々が向上出来るよう状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各種研修会など積極的に告知し、参加を促している。また、参加後の報告(レポート、報告会、勉強会など)を通じ、知識や情報が共有されるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	連絡会への加入や近隣事業所との連絡を通じ、情報の交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人・御家族からの聞き取りを基に、安心確保に努めている。また、希望があれば”体験入居(自主事業)”などを行い、御本人・御家族にとって入居がスムーズに行えるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	同上。 御家族などの面会の際、話しやすい場所(リビング、居室、廊下ソファなど)を設けたり、傾聴する姿勢で接するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談に見えた際、現在の状況やご希望を伺い、必要があれば他のサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることは本人にやって頂くこととし、本人の”出来る力”を引き出すよう努めている。また、自立度の低い方には、刺激となるような会話や活動の機会を設けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、担当職員が”今月の様子”を簡潔にまとめた手紙を作成し、請求書と共に送付している。また、緊急時や必要時には電話やメールにて連絡を取るようし、情報の交換・共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	対応困難な場合もあるが、御家族の協力やホームの対応で可能な場合は、地域との関わりを含め、本人の”生活のスタイル”が継続出来るよう支援している。図書館や美容院、自宅周辺のドライブなど。	家族の面会、正月お盆の帰省の推進、「サンタのおてがみ」を発行して家族とのつながりに努めていました。居室には家族の写真や御位牌が置かれていることがありました。地域資源の活用も積極的に行っていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食卓や、外出の際のグループ分けなど工夫し、孤立しない、且つ関わり過ぎない関係が築けるような支援を心掛けている。また、ユニット間を行き来することで、場面の切り替えや、良好な関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	見掛けの際には声を掛け、失礼にならない程度に現在の状況を伺うなど、関係が継続されるよう努めている。(御利用が終わった後でも、御家族より野菜やお米を頂くこともある。)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人・ご家族からの聞き取りを基に、時には御家族や主治医とも話し合いの場を設け、理解や協力を求めるなど、本人本位の生活が営めるよう支援している。	生活援助計画を活用し「本人の望ましい生活像」に取り組まれていました。本人の状態により思いがくみ取れない時は、家族の希望、意向を把握し支援計画を立てられていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・御家族からの聞き取りを基に、毎日の生活の中に取り入れられるものは取り入れ、なるべく今までの生活と変わらないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	業務日誌や個人記録、申し送りなどから、心身の状況を把握し、趣味や役割として”出来ること””目標”などを設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的(約3か月毎)、及び臨時でもカンファレンスを開催し、入居者本位のケアプランが作成されるよう話し合っている。また、御家族とは面会時などを使ってご希望などを伺い、プラン作成時には同意(サイン)を頂いている。	生活見直しシートを導入、個人の水分チェック表、排せつチェック表、インデント・アクシデント報告書、ケースの1日の流れ、皮膚トラブル表等を参考に見直しシートを作成し職員の協力によりプランが作成され、本人家族の承諾を得ていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常のちょっとした気付きも記録に残すよう心掛けている。また、簡潔で読み易い文章を心掛けて、職員間の情報が共有出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	空き部屋を利用し、自主事業として”一時預かり”を受け入れたり、希望があれば各学校などより”就業体験”を受け入れるなど、事業所として様々なニーズに対応すべく、多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	買い物・散歩の際、近隣住民と顔馴染み生まれ、花や野菜を頂いたり、地域行事に誘って頂けるなど、ホームの存在が認知されつつある。また、防災訓練の際、区長をはじめ地域住民にも参加・協力して頂けるよう体制を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は、本人・御家族と相談の上で選定し、専門医の紹介については主治医や協力医より紹介して頂くなど、適切な医療・継続的な関係が築けるよう、報告・連絡・相談をしながら支援を行っている。尚、現在3つの医療機関に往診を依頼している。	重要事項説明書には、緊急時の連絡先の主治医や強力医療機関との連携が記載されていました。協力医は施設に往診対応がされていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医、各入居者の主治医と連携し、情報や気づきを伝え、適切な受診や治療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各かかりつけ医や協力医との連携を密にし、早期発見・早期治療、早期退院に向けた関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に”看取り””重度化”について話し合い、方針を確認している。その後は、状態の変化に合わせ、なるべく早い段階から御家族と相談し、適切な対応が行えるよう努めている。	利用時説明に医療について記載され、主治医、終末期、看取りに関する同意書が交わされていました。ご家族との連携で本人に適切な支援の取り組みがされていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	医療に関する内・外部の研修に参加したり、消防署と相談し、研修（蘇生法、応急処置）などに参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	机上訓練を合わせ年4回（昼・夜想定）防災訓練を行い、全職員が適切な消火、避難の方法を身に付けられるよう努めている。また、地域の方にもご参加頂き、都度、対応・対策について協議している。尚、全館SECOMの管理がされており、緊急対策をとっている。	重要事項説明書には非常災害対策について明記され災害時の対応されていました。グループホームの夜間は職員が少数ため、地域の方の協力をお願いする防災訓練が行われています。居室入り口に移動手段が文言と図で示されていました。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	他人行儀にならず、且つ、赤ちゃん言葉にや教育的・指示的な言葉遣いにならないよう”安心出来る言葉遣い”を意識するよう努めている。また、個々の能力や状況に応じ、食事の際のテーブル配置、椅子の工夫を行っている。	利用契約書に利用者、利用者代理人の権利、秘密保持などが記載され、尊重とプライバシーは確保されていました。職員も言葉遣い、本人の誇りを損ねない支援を心がけていると感じました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限り、自己決定・自己表現が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	”一日が快適で、えがおが多く見られる過ごし方”を日々思考しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしい身嗜みが出来るよう、御家族にもご協力頂き、声掛け・支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	平日の昼食と夕食は外注弁当だが、“メニュー係”があり、祝祭日の献立に入居者の嗜好や旬の食材を取り入れるように心掛けている。また、下拵えから片付けまで”出来る力”を活かし、入居者にも”食”に参加して頂けるような支援を心掛けている。刻み食やペースト食にも対応している。	平日は外注弁当を利用されていますが祝祭日は、買い物と一緒に行き食材の調達を行っていました。食後に食器拭き、弁当の片付け等できることの関りを行っていました。食事形態は個々の利用者に合わせて提供されていました。	外注弁当は栄養管理もされていますが、食事臭いが感じられる関りが一層できる環境をお願いいたします。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分摂取量(自力摂取困難な方や著しく摂取量の少ない方)を記録し、栄養バランスが保てるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る部分は本人に行って頂き、ブラッシングや口腔内をガーゼで拭うなど、必要な援助を行っている。「口腔ケア委員会」を立ち上げ、個々に合った用具の選定、使用を提案している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	極力トイレでの排泄を促し、本人の心身の状況に合わせおむつ類を選んだり、トイレ誘導やおむつ交換を行っている。また、昼夜でおむつ類を使い分けるなど、個別の対応に努めている。	人としての羞恥のことになるためトイレでの排泄を即していました。本人の気持ちに寄り添いトイレ誘導されていました。排泄の記録もされ個々のパターンを把握し誘導がされていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	必要な方は「排泄チェック表」を作成・使用し、下剤も併用・調整しながら、食物繊維や乳製品を摂って頂くなどの取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	リフト浴あり。全入居者をグループ分けし、日替わりで入浴(週2回以上)して頂いている。時間について目安はあるが、入浴日に「午前？午後？」などの希望を確認し、可能な範囲で希望に沿うよう努めている。	入浴は週2回以上行われ、本人に確認が行われていました。介助は必ずしも同姓介護にはなりませんが 異性介助には確認を取って行われていました。	同姓介護は利用者比率、職員比率、支援体制に困難がありますが、本人の希望や尊厳の確保に期待いたします。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活のリズムやその時の状態に合わせて休息・午睡を摂って頂いている。また、居室は本人の馴染みのある物をお持ち頂くようお願いし、安心出来る空間作りにも配慮している。主治医と相談の上、なるべく眠剤に頼らない睡眠を目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情やインターネットを活用し、把握に努めている。また、各担当者は、服薬内容や副作用についての把握にも努めるよう指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	聞き取りや心身の状況を基に検討し、能力に応じて個別の役割や楽しみ事が見出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の買い物や散歩、区や町などの地域行事、ドライブなど本人の希望や社会との交流を目的とした外出の機会がもてるよう努めている	買い物外出や散歩は、本人の希望を確認し行われていました。ドライブは利用者の自宅付近に行くなど地域での生活を大事に取り組まれました。地域の行事に参加する機会も多く地域の方の理解も得られていました。	利用者の楽しみ、地域との関りとなる外出の機会の提供を一層お願いいたします。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	普段は事務所にて管理しており、必要・能力に応じ(職員同行の元)金銭を使用している。また、御家族面会時に出納帳の確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人、御家族の要望に合わせ、電話や手紙、はがきでのやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天気の良い日はウッドデッキや玄関先に出て外気浴をすることが出来る。また、ユニットを隔てる壁は可動式の為、行事やレクリエーションの際にオープンにし、広い空間で過ごすことが出来る。廊下には行事の写真や季節に応じた壁紙を作成・掲示し、居心地の良い空間づくりに努めている。	廊下には、行事や外出時、レクリエーションの写真や絵が季節ごと掲載され楽しい体験を共有していました。廊下や居室は明るく環境も整えられていました。共有スペースは利用しやすくなっていましたが、個々にも対応され、食事に集中できる工夫もされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング～洗面所～居室～ユニット間など、ホーム内はフラットで自由に往来出来、ユニットを越えて、気の合った者で談笑するなど、思い思いに過ごすことが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭環境にもよるが、家具、寝具、棚、飾り付けなどは統一せず、本人の使い慣れた物、馴染みの物で揃えて頂くようご家族にお願いし、“居心地”と“生活し易さ”を重視している。	居室は混乱が起きないように整理されていました。個々の対応には家族の写真やこれまでの生活の延長を感じられる工夫もされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	玄関エントランス以外、建物内はフルフラットになっており、通常、入居者の移動に支障はない。また、整理・整頓の際には、可能な範囲で本人にも参加して頂き、“安全の確保”“出来る力の発揮”に努めている。		